

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)		平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題																																										
診療科目	<p>14診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科</p> <p>上記以外の診療科については、市民ニーズ等の必要に応じて、指定管理者と協議し、追加できるものとします。</p>	<p>12診療科</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科</p> <p>市民ニーズ等必要に応じて、市との協議のもと診療科目を追加する。</p>	<p>14診療科目</p> <p>内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科(平成28年1月～) 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科(平成28年1月～) 麻酔科</p>	<p><形成外科・救急科の追加標榜について></p> <p>形成外科 手術後の目立つ傷跡を目立たなくしたり、他科の手術で失われた組織を治すなどの治療を行う。熱傷、交通外傷等の救急医療の充実に寄与するとともに褥瘡・糖尿病壊疽等増加する高齢者医療への貢献を目指す。</p> <p>形成外科の患者数・手術件数実績(H28.1～3)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1日平均</td> </tr> <tr> <td>外来(人)</td> <td>707</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>入院(人)</td> <td>43</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>手術(件)</td> <td>89</td> <td>1.0</td> </tr> </table> <p>救急科 市立病院の救急医療体制の中心である救急専門医を救急部門の専属とし、救急医療の更なる充実を図るとともに、不足する救急専門医を確保するため、新専門医制度に向けた指定施設等を目指す。</p> <p><その他></p> <p>総合診療科 H27. 7～ 月～金 17:00～19:00 総合診療科患者数(H27.7～28. 3)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1日平均</td> </tr> <tr> <td>外来(人)</td> <td>1,271</td> <td>8.3</td> </tr> </table> <p>がん治療相談外来 H27. 10～ 週1回AM 緩和医療外来 H27. 10～ 週2回AM ペイン(痛み)外来 H27. 11～ 週1回AM</p>		合計	1日平均	外来(人)	707	7.8	入院(人)	43	0.5	手術(件)	89	1.0		合計	1日平均	外来(人)	1,271	8.3	<p>○平成27年度事業計画の12標榜診療科で開院し、平成28年1月からは形成外科と救急科の2科を追加標榜し、病院事業計画で掲げる診療科の標榜は実現できている。</p> <p>○形成外科は、標榜から3ヶ月で、1日平均外来患者数7.8人、1日平均入院患者数0.5人、1日平均手術件数1.0件の実績であった。2/15号広報紙でPRを行い更なる利用増を図っている。</p> <p>○救急科は、標榜したことで救急受入れ件数が増加するというものではないが、不足する救急専門医を確保するため、新専門医制度に向けた指定施設等を目指すという趣旨で意義がある。</p> <p>○医療提供の幅を広げるため、14診療科に加え、院内標榜として総合診療科(夕診)やがん治療相談外来等を開設している。</p> <p>課題 診療科目や専門外来を検討、標榜をしていくためには、市民ニーズ等の把握に努める必要がある。また、市立病院ならではの特色ある専門外来の院内標榜を打ち出して、利用者の増を図る必要がある。</p>																								
	合計	1日平均																																													
外来(人)	707	7.8																																													
入院(人)	43	0.5																																													
手術(件)	89	1.0																																													
	合計	1日平均																																													
外来(人)	1,271	8.3																																													
病床数	<p>病床数210床</p> <p>ICU 7床 小児科 20床 産婦人科 20床 内科系 79床 外科系 84床</p>	<p>(平成27年6月1日) 実稼働可能病床数99床</p> <p>小児科 4床 産婦人科 18床 内科系 47床 外科系 30床</p> <p>市民ニーズ等必要に応じて、随時開棟する。</p>	<p>(平成28年3月31日) 実稼働可能病床数153床</p> <p>小児科 4床 産婦人科 18床 内科系 76床 外科系 48床 その他 7床 (HCU)</p>	<p>・3病棟 10対1看護基準</p> <table border="1"> <tr> <th>診療科</th> <th>病院事業計画との比較</th> <th>平成27年度事業計画との比較</th> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>-16床</td> <td>±0床</td> </tr> <tr> <td>産婦人科</td> <td>-2床</td> <td>±0床</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>-3床</td> <td>+29床</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>-36床</td> <td>+18床</td> </tr> <tr> <td>ICU(HCU)</td> <td>±0床</td> <td>+7床</td> </tr> </table> <p><病棟別実稼働可能病床数の推移></p> <table border="1"> <tr> <th>病棟名</th> <th>6月1日～</th> <th>8月1日～</th> <th>1月1日～</th> </tr> <tr> <td>3階ICU室</td> <td>—</td> <td>(HCU)7床</td> <td>(HCU)7床</td> </tr> <tr> <td>4階西病棟</td> <td>48床</td> <td>48床</td> <td>43床</td> </tr> <tr> <td>4階東病棟</td> <td>51床</td> <td>51床</td> <td>51床</td> </tr> <tr> <td>5階西病棟</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>52床</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>99床</td> <td>106床</td> <td>153床</td> </tr> </table> <p>・開院当初からは、ICUは稼働せず、入院患者数や状況等を勘案して、8月から、まずはHCUとして稼働させた。 ※ICUとHCUの違い ICU(Intensive Care Unit)は集中治療室で、呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者の容態を24時間体制で管理し、より効果的な治療を施すことを目的とする。専任の医師が常時、特定集中治療室内に勤務していることが条件の一つ。 HCU(High Care Unit)は準集中治療室で、高度で緊急を要する医療を行うための病室。ICUよりは軽症な患者を収容する。専任の医師が常時1名以上、院内に勤務していることが条件の一つ。</p>	診療科	病院事業計画との比較	平成27年度事業計画との比較	小児科	-16床	±0床	産婦人科	-2床	±0床	内科	-3床	+29床	外科	-36床	+18床	ICU(HCU)	±0床	+7床	病棟名	6月1日～	8月1日～	1月1日～	3階ICU室	—	(HCU)7床	(HCU)7床	4階西病棟	48床	48床	43床	4階東病棟	51床	51床	51床	5階西病棟	—	—	52床	計	99床	106床	153床	<p>○平成27年度事業計画どおり開院当初から99床でスタートし、その後入院患者数の推移に応じて、5階西病棟を開棟し、内科系29床、外科系18床を稼働させた。また、HCU7床も稼働させ、稼働病床数の増加を図った。</p> <p>○なお、病院事業計画との比較では、小児科病床で-16床、外科系病床-36床と差が大きく、小児科、外科系ともに常勤医師の不足が影響しているものと考えられる。</p> <p>課題 小児科及び外科系の稼働病床数の増加に向けて、脳神経外科、整形外科の常勤医師確保の取組みを強化する必要がある。</p>
診療科	病院事業計画との比較	平成27年度事業計画との比較																																													
小児科	-16床	±0床																																													
産婦人科	-2床	±0床																																													
内科	-3床	+29床																																													
外科	-36床	+18床																																													
ICU(HCU)	±0床	+7床																																													
病棟名	6月1日～	8月1日～	1月1日～																																												
3階ICU室	—	(HCU)7床	(HCU)7床																																												
4階西病棟	48床	48床	43床																																												
4階東病棟	51床	51床	51床																																												
5階西病棟	—	—	52床																																												
計	99床	106床	153床																																												

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)		平成27年度 事業計画		平成27年度 事業報告		平成27年度 事業報告の補足説明						取組の評価・課題						
人員体制	人員体制については、開院当初は、1日平均患者数(外来300名、入院140名と仮定)による医療法規定人員数に基づき、次のとおり整えます。	(平成27年6月1日)		(平成28年3月31日現在)		<人員体制>						○病院事業計画に基づき、常勤医師の確保に努めたが、全国的な医師不足、医師の地域・診療科偏在の状況下、どうしても常勤医師が不足している診療科については、非常勤医師を確保し、対応し、平成27年度事業計画との比較では、常勤換算で+1.9人と増員を図っている。一方で、病院事業計画との比較においては、小児科、産婦人科、一般外科、脳神経外科、整形外科、リハビリ科で医師数がマイナスになっている状況。 課題 特に常勤医師がいない整形外科、脳神経外科及び常勤医師が不足している産婦人科や小児科など診療科について優先的な医師の確保が必要。 ○子育て中の医師・看護師の育児支援・就労支援として院内保育園を設置し、24時間保育や休日保育を行っていることから、外来、病棟ともに看護師数については、計画以上の人員を確保できている。 ○開院当初から運動療法・物理療法の理学療法及び失語症、嚥下障害のリハビリである言語聴覚を実施した。 ○平成28年1月から作業療法士が着任し、着替え・トイレなどの日常生活行為の機能回復である作業療法が加わったことにより、リハビリ領域の拡充ができた。						
		職種	人数	職種	人数	職種	人数	診療科別	病院事業計画	平成27年度事業計画	平成27年度事業報告		平成27年度事業計画との比較	病院事業計画との比較				
		医師	25名	医師	18.3名	医師	20.2名	計	常勤換算	常勤	非常勤		常勤	非常勤	常勤換算	常勤換算		
		看護師	80名	看護師	80.2名	看護師	89.6名	小児科	2	0	6		1	5	1.4	+1	-1	-0.6
		薬剤師	6名	薬剤師	5.6名	薬剤師	7.6名	産婦人科	3	2	0		1	1	1.0	-1	+1	-2.0
		理学療法士		理学療法士	3名	理学療法士	2名	一般内科	4	4	4		2	15	4.0	-2	+11	±0
		作業療法士	3名	言語聴覚士	1名	作業療法士	1名	循環器内科	2	2	0		2	0	2.0	±0	±0	±0
		言語聴覚士		放射線技師	7名	言語聴覚士	1名	消化器内科	1	2	1		2	2	2.3	±0	+1	+1.3
		放射線技師	6名	検査技師	7名	放射線技師	7名	放射線科	1	0	1		1	0	1.0	+1	-1	±0
		検査技師	7名	管理栄養士	3名	検査技師	6名	一般外科	3	3	2		2	1	2.1	-1	-1	-0.9
栄養士	2名	看護助手	9名	栄養士	3名	脳神経外科	2	0	2	0	4	0.2	±0	+2	-1.8			
看護助手	29名	臨床工学技士	2名	看護助手	10名	整形外科	2	0	1	0	2	0.1	±0	+1	-1.9			
事務職員他	40名	事務職員他	27.6名	事務職員他	34.7名	リハビリテーション科	1	0	1	0	1	0.1	±0	±0	-0.9			
合計	198名	合計	163.7名	合計	185.1名	麻酔科	1	1	0	2	0	2.0	+1	±0	+1.0			
						形成外科	1	0	0	1	1	1.1	+1	+1	+0.1			
						腎臓泌尿器科	1	1	3	1	5	1.9	±0	+2	+0.9			
						救急科	1	0	0	1	0	1.0	+1	±0	±0			
						計	80	80.2	89.6	9.4	9.6	(常勤換算)	(常勤換算)	(常勤換算)	(准看護師含)			
						外来部門	30	19	9	23	10	28.8	+4	+1	-1.2			
						入院部門	50	42	4	55	8	60.8	+13	+4	+10.8			
						内)准看護師	(准看護師含む)	(6)	(2)	(7)	(0)	(7)	+1	-2	-			
						助産師		8	2	(5)	(2)	(6.1)	-3	±0	-			
						保健師	0	1	0	(1)	(0)	(1)	±0	±0	-			
						薬剤師	6	5	1	7	1	7.6	2	±0	+1.6			
						理学療法士		3	0	2	0	2	-1	±0				
						作業療法士	3	0	0	1	0	1	+1	±0	+1			
						言語聴覚士		1	0	1	0	1	±0	±0				
						放射線技師	6	7	0	7	0	7	±0	±0	+1			
						検査技師	7	7	0	6	0	6	-1	±0	-1			
						栄養士	2	3	0	3	0	3	±0	±0	+1			
						看護助手	29	9	0	10	0	10	+1	±0	-19			
						臨床工学士	0	2	0	3	0	3	+1	±0	+3			
						事務職員他(常勤換算)	40	27.6		34.7		34.7	+7.1	-	-5.3			
						合計	198	163.7	185.1	21.4	12.9	(常勤換算)	(常勤換算)	(常勤換算)	(常勤換算)			

平成27年度 事業計画		平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題																																																																																	
患者数	1日平均患者数 入院 142.1人 外来 157.9人	・1日平均患者数(達成率) 入院 57.9人 (40.7%) 外来 79.7人 (50.5%)	<p>・患者数の想定は、直近に新設したグループ病院の開院初年度の患者数の実績から、市立病院であることや立地条件等を勘案して、市立病院の初年度の外来患者数を想定した。</p> <p><診療科別患者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位:人</th> <th>合計</th> <th>1日平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ入院患者数</td> <td>17,647</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>平成27年度事業計画平均</td> <td>-</td> <td>142.1</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>40.7%</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>108</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>産婦人科</td> <td>702</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>内科系</td> <td>12,580</td> <td>41.2</td> </tr> <tr> <td>外科系</td> <td>3,435</td> <td>11.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>822</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>延べ外来患者数</td> <td>24,295</td> <td>79.7</td> </tr> <tr> <td>平成27年度事業計画平均</td> <td>-</td> <td>157.9</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>50.5%</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>8,936</td> <td>29.3</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>2,509</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>循環器内科</td> <td>1,954</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>2,705</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td>脳神経外科</td> <td>463</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>1,230</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>形成外科</td> <td>707</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>1,178</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>腎臓泌尿器科</td> <td>1,819</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>産婦人科</td> <td>1,993</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション科</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>麻酔科</td> <td>93</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>透析</td> <td>278</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>健診科(ドック含む)</td> <td>430</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>1,312</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table>	単位:人	合計	1日平均	延べ入院患者数	17,647	57.9	平成27年度事業計画平均	-	142.1	達成率	-	40.7%	小児科	108	0.4	産婦人科	702	2.3	内科系	12,580	41.2	外科系	3,435	11.3	その他	822	2.7	延べ外来患者数	24,295	79.7	平成27年度事業計画平均	-	157.9	達成率	-	50.5%	内科	8,936	29.3	消化器内科	2,509	8.2	循環器内科	1,954	6.4	外科	2,705	8.9	脳神経外科	463	1.5	整形外科	1,230	4.0	形成外科	707	7.8	小児科	1,178	3.9	腎臓泌尿器科	1,819	6.0	産婦人科	1,993	6.5	リハビリテーション科	0	0.0	麻酔科	93	0.3	透析	278	0.9	健診科(ドック含む)	430	1.4	紹介患者数	1,312	4.3	<p>○入院の1日平均患者数は、内科系、外科系が多く、小児科、産婦人科は少ない。</p> <p>○外来の1日平均患者数は、内科が最も多く、次いで外科、消化器内科、形成外科が多い。</p> <p>○脳神経外科、整形外科については、常勤医師がいないため、平日の外来診療日が少なく、また、手術や入院対応ができなかった。</p> <p>○全体的には、市立病院が提供できる医療機能に関しての市民や地域の診療所等への周知不足がある。</p> <p>課題 市民や地域の医療機関へ、市立病院の医療に関する必要な情報をそれぞれ積極的に提供していく必要がある。</p>
単位:人	合計	1日平均																																																																																			
延べ入院患者数	17,647	57.9																																																																																			
平成27年度事業計画平均	-	142.1																																																																																			
達成率	-	40.7%																																																																																			
小児科	108	0.4																																																																																			
産婦人科	702	2.3																																																																																			
内科系	12,580	41.2																																																																																			
外科系	3,435	11.3																																																																																			
その他	822	2.7																																																																																			
延べ外来患者数	24,295	79.7																																																																																			
平成27年度事業計画平均	-	157.9																																																																																			
達成率	-	50.5%																																																																																			
内科	8,936	29.3																																																																																			
消化器内科	2,509	8.2																																																																																			
循環器内科	1,954	6.4																																																																																			
外科	2,705	8.9																																																																																			
脳神経外科	463	1.5																																																																																			
整形外科	1,230	4.0																																																																																			
形成外科	707	7.8																																																																																			
小児科	1,178	3.9																																																																																			
腎臓泌尿器科	1,819	6.0																																																																																			
産婦人科	1,993	6.5																																																																																			
リハビリテーション科	0	0.0																																																																																			
麻酔科	93	0.3																																																																																			
透析	278	0.9																																																																																			
健診科(ドック含む)	430	1.4																																																																																			
紹介患者数	1,312	4.3																																																																																			

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ① 質の高い医療の提供 生駒市の地域医療の問題点を踏まえ、政策的に実施すべき医療事業を確実に実施し、市民満足度の高い、質の高い医療を提供する。</p>	<p>基本方針 患者中心の市民満足度の高い、質の高い医療を提供する。</p>	<p>・入院・外来患者アンケート調査実施(H28. 2)</p> <p>患者満足度(総合評価の評点) 入院 85. 3点(有効件数39件) 外来 79. 3点(有効件数346件)</p> <p>・ご意見箱の設置(H27. 9) (ご意見に対する対応の例) ○デイルームに電子レンジ、給湯器設置 ○全館トイレにトイレクリーナー設置 ○東生駒駅に案内板設置 ○病院スタッフの接遇等に関するご意見等に関して迅速に指導、教育等の対応</p> <p>・科目別手術件数 内科 6件 消化器内科 2件 循環器内科 26件 外科 149件 形成外科 93件 腎臓泌尿器科 31件 産婦人科 27件 合計 334件</p> <p>・分娩数 57件 県内37件(市内33件、市外4件) 県外20件</p> <p>・大型医療機器等の導入実績 6/1～ CT MRI 7/1～ CAG</p>	<p>・本アンケート調査は、指定管理者である徳洲会が、病院への評価等を把握し、問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的として、毎年、グループ内の全72病院を対象に実施している。</p> <p>※患者満足度(総合評価の評点)は、医師・看護師の診療内容・態度、職員の対応・サービス、食事の充実、病院の施設・設備・環境についての各評価項目の総合点を表記している。</p> <p>・ご意見箱は、1階総合待合及び4階病棟のデイルームに設置。</p> <p>・腹腔鏡下手術 51件 ・ダ・ヴィンチ手術(前立腺摘出術) 8件 ※H28. 6～保険適用可</p> <p><腹腔鏡下手術、ダ・ヴィンチ手術の説明> ・腹腔鏡下手術とは、腹部に数か所穴をあけ、内視鏡の一種である腹腔鏡を入れて内部をみながら、別の穴から入れた器具で手術を行う方法。腹部消化器手術の一つとして行なわれている。 ・ダ・ヴィンチ手術とは、胸腔ないし腹腔の内視鏡下手術用ロボットを活用した先進医療であり、患者への負担が少ない手術を可能にする。現在、前立腺癌、腎臓癌の摘出手術が保険適用が認められており、市立病院では、本年度は、前立腺癌摘出手術の保険適用を受けるため、臨床試験を行なった。</p> <p>・1か月あたりの平均分娩数5. 7件/月(7/18 市立病院第1号ベビー) ・ハイリスク分娩への対応は、県総合医療センターと連携を取っている。 通常の未熟児出産は市立病院で対応可能。 (県総合医療センターへ救急搬送した事例なし) ・助産制度の実績 5件 ※市立病院は、児童福祉法第36条に規定する「助産施設」として届出している。</p> <p>・医療機器稼働件数 CT 3, 769件 * CT検査: X線を使って身体の断面を撮影する検査 MRI 953件 * MRI検査: 磁気を利用して体の臓器や血管を撮影する検査 心臓カテーテル検査(CAG) 126件 * 虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)の診断のため、カテーテルを心臓まで挿入し、心臓の心機能測定や血管造影などを行う検査</p>	<p>○外来部門の満足度 医師の「患者さんへの配慮」や「内容の説明」「看護師の対応やサービス」に評価が高く、会計、総合受付、掲示物の項目の評価が低くなっている。</p> <p>○入院部門の満足度 医師、看護師の説明、態度に関する項目の評価が高く、食事、掲示物、売店、静寂といった施設環境の項目の評価が低くなっている。</p> <p>課題 アンケート調査の結果、満足度の評価が低くなっている項目については、関係部署、委託業者等と協議しながら改善していく必要がある。</p> <p>○ご意見箱の設置により、市立病院の管理運営に市民の意見を反映させ、市民満足度の向上につなげていく仕組みができた。</p> <p>○高齢者のがん治療では、開腹手術より低侵襲で早期の社会復帰が可能な腹腔鏡下手術を取り入れ、特に、前立腺がんの手術については、先進のロボット手術(ダ・ヴィンチ)を実施し、傷をできる限り小さなものにし、患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○従来、本市内に公立病院がなかったため、他市の公立病院に頼らざるを得ない状況の助産施設を市立病院に位置づけることができた。</p> <p>※県内の助産施設 県立奈良病院(現状は、ハイリスク分娩のみ対応)、市立奈良病院、大和高田市立病院</p> <p>○大型医療機器の実績としては、地域医療機関からの検査依頼も含め、順調に稼働している。</p> <p>○休日夜間救急体制の診療対応レベルとして、いつでもCT、MRI、X線の諸検査、さらに、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術も対応可能な診療体制を整えることができています。</p>

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題										
<p>医療における安全管理に対する取組</p> <p>●安全管理マニュアルの策定について 各部署からリスクマネージャーを選任し、院内にリスクマネジメント委員会を設置します。また、リスクマネジメント委員会は隔週開催し、医療安全管理者を中心に報告事例をもとにマニュアル化したうえ便覧を作成、各部署に配布し情報を共有します。</p> <p>●医療事故に対する対応について 発生した医療事故については、関係者から医療安全管理者へ迅速に報告し、その報告をもとに調査を行い、MRM(メディカルリスクマネジメント)委員会で分析したうえ、医療安全推進委員会で討議し対応の決定を行ないます。</p> <p>●院内感染対策について 感染防止委員会・リンクナース委員会をそれぞれ定期的に開催し、感染症発生の監視、院内感染の監視、職員の管理(予防接種等)、事故調査及び防止策の検討、職員に対する啓蒙と教育など、感染防止に対する取り組みを行ないます。</p>	<p>基本的な医療提供</p> <p>●医療安全管理に対する取組 市民の生命と健康を守る観点から医療安全委員会や感染防止委員会を中心とした、説明と同意を重視する医療安全対策に関する取り組みを強化し、安全で安心な医療体制を構築する。</p>	<p>・医療安全管理規程・医療安全管理委員会規程の策定・運用(6/1～)</p> <p>・医療安全管理委員会(毎月1回開催) 開催日 6/4、7/15、8/17、9/16、10/19、11/16、12/21、1/18、2/15、3/16</p> <p>・医療安全勉強会(年2回開催) ・12/21 76人参加 ・3/23 71人参加</p> <p>・医療安全カンファレンス(毎週1回開催) ・8/17～</p> <p>・医療安全ラウンド(毎月1回開催) ・2/15～(医療安全管理委員会開催日に開催)</p> <p>・院内感染対策委員会(毎月1回開催) 開催日 6/8、7/6、7/14、8/10、9/14、10/13、11/9、12/14、1/12、2/8、3/14</p> <p>ICT合同カンファレンス(偶数月参加) ICTラウンド(毎週1回開催) ・8/6～ 感染勉強会 3/31 75人参加</p>	<p>・各部門に医療安全管理委員を置き、各部門が作成した事例ごとに詳細のマニュアルを作成し、運用。</p> <p><病院事業計画との対比></p> <table border="0"> <tr> <td>医療安全管理に関する組織等</td> <td>病院事業計画での相当する組織等</td> </tr> <tr> <td>・医療安全管理委員会</td> <td>→ ・医療安全推進委員会に相当</td> </tr> <tr> <td>・医療安全管理委員</td> <td>→ ・リスクマネージャーに相当</td> </tr> <tr> <td>・医療安全カンファレンス</td> <td>→ ・リスクマネジメント委員会に相当</td> </tr> <tr> <td>・院内感染対策委員会</td> <td>→ ・感染防止委員会に相当</td> </tr> </table> <p>・医療安全管理委員会では、院内でのインシデント(ヒヤリハット)・アクシデント事例(歩行中の転倒、経管栄養チューブの自己抜去など)の報告・情報共有・対策検討や患者からの暴力や、患者の認知障害、精神不安などからの離院対策などを検討。</p> <p>・院内感染対策委員会(ICT)は、医療安全管理委員会の下に設置し、感染発生の監視、院内感染の監視、職員の管理(予防接種等)、事故調査及び防止策の検討を行う体制を整備。</p> <p>※ラウンドとは、各部署を巡回し、医療事故やインシデントがおきやすい環境(物品の配置等)を指摘し、各委員会で報告し、改善を促す活動のこと。</p>	医療安全管理に関する組織等	病院事業計画での相当する組織等	・医療安全管理委員会	→ ・医療安全推進委員会に相当	・医療安全管理委員	→ ・リスクマネージャーに相当	・医療安全カンファレンス	→ ・リスクマネジメント委員会に相当	・院内感染対策委員会	→ ・感染防止委員会に相当	<p>○医療安全管理に関する規定・マニュアル等を作成し、適正に運用している。</p> <p>○病院事業計画と組織体系や名称は異なるものの、事業計画に基づき、医療安全管理に関する取り組みを実施している。</p>
医療安全管理に関する組織等	病院事業計画での相当する組織等													
・医療安全管理委員会	→ ・医療安全推進委員会に相当													
・医療安全管理委員	→ ・リスクマネージャーに相当													
・医療安全カンファレンス	→ ・リスクマネジメント委員会に相当													
・院内感染対策委員会	→ ・感染防止委員会に相当													

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ② 地域完結型の医療体制構築への寄与 地域の病院がそれぞれの機能を分担し、かかりつけ医との連携も含めた地域完結型の医療を目指し、また、患者を中心とした継続性のある医療を提供するため、前方支援と後方支援を考慮し、周辺の地域医療機関との病診連携や病病連携を積極的に推進する。</p> <p>地域の支援に対する取組 ●在宅支援機能の充実 地域連携バスや退院支援チーム等の取組みにより、在宅支援診療所との連携を図りながら、在宅への移行支援を行ないます。また、急性期医療の患者を対象とした在宅医療システムを検討実施します。具体的には、在宅患者の増悪事に対応する処置、入院加療用として5床を確保します。</p> <p>●開放型病床の設置 地域の開業医と連携することにより、診療の一貫性が実現できることから、医師会と病床数や運営方法を協議の上、開放型病床を設置します。</p> <p>●地域医療機関への医療教育プログラムの提供 次の取組を検討し、段階的に実施します。 ・診療科による他医療機関との合同症例検討会の実施 ・院内外の医療従事者に対するTCLS又はAHABLS、AHAACLトレーニング(ACLSに相当する指定管理者のプログラム)の継続的实施(2年に1回程度) ・医療機関、救急隊との定期勉強会の実施(年2回程度)</p>	<p>基本方針 地域の医療機関や介護・福祉との密接な連携を図ると共に、生駒市立病院管理運営協議会の意見を積極的に採用し、地域医療の充実に貢献します。</p> <p>基本的な医療提供 地域医療の支援に対する取組 ●「在宅患者の増悪時に対応する処置」 市内の在宅患者が安心して在宅サービスを受けられるように、市内の医療機関、介護施設等との連携の中で、円滑で速やかな受入体制を構築していきます。</p> <p>●「地域連携バス等」 急性期である市立病院から回復期や維持期、在宅期に至るまでの一貫性・継続性のある診療計画で患者をケアしていけるような地域連携バスの導入について、市内医療機関や介護事業所等と協議し、検討を始めます。</p> <p>●「開放型病床の設置」 改めてニーズ把握を行った上で、実施の是非について検討します。</p> <p>●「地域・市民への情報提供と啓発活動」 医療機関向けの「地域医療機関への医療教育プログラム」「合同症例検討会等」「医療機器のオープン利用」なども各関係機関と協議の上、推進していきます。</p>	<p>・地域連携バスの導入 未実施</p> <p>・開放型病床の設置 未実施</p> <p>・医療教育プログラム ALSO(周産期救急教育コース)を実施</p> <p>・合同症例検討会 病診連携談話会にて、 H27年8月、平成28年2月に実施</p> <p>・医療機器のオープン利用 MRI 34件 CT 41件 内視鏡 4件 エコー 4件</p>	<p>平成27年度 事業報告の補足説明</p> <p><未実施の理由> ・H26年3月に実施した「生駒市の地域医療の連携に関するアンケート」(市実施)及び「生駒市立病院についてのアンケート」の両結果から見ると、生駒市病院事業計画に掲げる地域医療の支援のための取組みの「地域連携バス」「開放型病床」については、そのニーズは必ずしも高いとは言えず、実施の是非については、改めてニーズ把握をすべき(「生駒市病院事業推進委員会医療連携専門部会検討報告書 H26.11.19」からの抜粋)</p> <p>※「地域連携バス」とは、地域のかかりつけ医と病院の専門医とが、患者の診療情報を共有できる診療計画表のことで、その疾患に必要な治療や検査が盛り込まれている。連携バスを活用して、かかりつけ医と専門医が協力して患者の診療を行うもの。 ※「開放型病床」とは、患者のかかりつけ医と病院の医師が、共同して患者の治療を行える病床のこと。地域の先生方と連携して患者の治療にあたり、よりレベルの高い治療を目指すもの。</p> <p>○ALSO(周産期救急教育コース) 医師やその他医療プロバイダー(看護師、助産師、MSWなど)が周産期救急に対し、効果的な知識やその力を発展・維持するために実施する教育コース。</p> <p><病診連携談話会の実績> 症例検討会の実施、市立病院の各診療科の紹介(担当医師による)、市立病院への紹介件数や機器の共同利用実績の報告など。 ① 第1回(8/27 地域医療機関より22名参加) 院内医師による循環器内科と消化器内科の症例検討会を実施。(内登録医11施設12名) ② 第2回(2/25 地域医療機関より13名参加) 院内医師による形成外科、消化器内科、循環器内科の症例検討会を実施。(内登録医6施設6名) ※以上の2回とも参加は、登録医6名、その他4名。</p> <p>○医療機器のオープン利用は、地域医療連携を進めていく中で、開業医の先生方からの要望に対応し、診療所を中心に当院の機能を広く地域に提供し、病診連携をもって地域の方々の健康増進を図ることを目的とし、地域連携室にて受け付け、検査結果及び診断・読影結果等を紹介元医療機関へご報告している。</p>	<p>取組の評価・課題</p> <p>課題 増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、在宅患者の増悪時の病床の確保等在宅支援の取組も推進していく必要がある。</p> <p>課題 地域連携バス、開放型病床については、ニーズ把握の時期や方法等について協議・検討する必要がある。</p> <p>○事業計画に基づき教育プログラム等を実施している。</p> <p>課題 今後はさらに病診連携談話会の出席者を増やしていく必要がある。</p> <p>○大型医療機器の実績としては、地域医療機関からの検査依頼も含め、順調に稼働している。(再掲)</p> <p>課題 さらなる利用増を図るため、利用のメリットや利用しやすさを検討していく必要がある。</p>

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題
<p>●周辺の他の医療機関との連携 新病院開院後は、医師会に加入し、医療機器の相互利用やグループ内専門医による研究会、合同カンファレンスの開催、医師会枠としての開放病床の取組を進めます。 また、連携に賛同された医療機関を写真入りで院内に公開する「かかりつけ医コーナー」を設置し、患者が自由に情報収集でき、希望に応じて紹介状の作成、予約確認等を行い案内するシステムを構築します。 また、地域に必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携等を図る観点から、医師会の協力のもと、地域の診療所や病院を支援する医療機関として、将来的には「地域医療支援病院」の承認を目指します。</p> <p>●地域医療連携推進のための組織・体制及び方法の整備 院内に地域医療連携室を設置し、専任職員(看護師・MSW・介護職員等で構成)を配置します。 この専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズに応え、相互の紹介をはじめ診療情報等の提供を行ないます。また、今後、さらなる地域医療連携を推進するため、医師会等とも十分に協議しながら地域共有型電子カルテネットワークシステムの構築に向けての検討を行います。</p>		<p>・医療連携登録医 47施設・58名 ※内、市内クリニックは21施設・25名 (全市内CLの24%)</p> <p>・協力医療機関連携施設 15施設</p> <p>・紹介率 31.6%</p> <p>・地域(市内)医療機関の市立病院利用率 29.5%</p>	<p>・医療連携登録医は、医療連携登録医申請書の提出。 ・協力医療機関連携施設(介護老人福祉施設「優楽」、グループホーム、特養、デイサービス、小規模多機能ホームなど)は、連携契約書を締結。 ・周辺その他の医療機関との連携 8月27日、2月25日病診連携談話会の開催の後、市内等の医療機関へのあいさつ回りなどを鋭意実施。 ・医師会への入会申し込みはH27年6月末に行っており、同年10月に「継続審査」との回答。現在入会待ちの状況。</p> <p>・紹介率 (紹介初診患者数+初診救急患者数)÷初診患者数</p> <p>・地域(市内)医療機関の市立病院利用率 市内で紹介を受けた医科医療機関数÷市内医科医療機関数</p> <p>・地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等 地域医療連携室を設置し、専任職員を4名配置し、診療所等からの紹介窓口業務及び入院患者の退院支援業務(自宅へ帰れない患者の入所施設を探したり、療養病院を探すなど)を行っている。</p>	<p>○地域医療連携室を中心に地域医療機関からの紹介患者の受け入れを進めた。</p> <p>○医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録も増加している。</p> <p>課題 医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数を更に増やしていく必要がある。 地域医療機関との病病・病診連携の推進、紹介患者の増加のためには、医師会との連携は不可欠であることから、引き続き、入会審査に対応していく必要がある。</p> <p>○地域医療連携室を設置し、病病連携・病診連携窓口として地域の医療機関からの紹介や外来患者・家族の相談への対応や当院入院中の患者・家族への対応を行い、地域の関係機関との調整を行いながら自宅復帰や施設入所へのお手伝いを行っている。</p> <p>課題 地域医療機関との連携強化に向けた地域医療連携室の体制強化 市立病院の医療内容を地域医療機関に知っていただくための効果的なPRなどの取組を検討する必要がある。</p>

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題																																				
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ③ 救急医療の充実 本地域における二次救急医療に対応できる中核病院の必要性から、内科系、外科系、小児科系の二次救急医療の充実を図る。</p> <p>●救急医療体制 市内の二次救急体制で中心的な役割を果たすことを目指し、内科系二次・外科系一次二次輪番体制へ参加するとともに、北和小児科二次輪番体制等への参加や休日夜間応急診療所のバックアップを行います。さらに、救急告示病院として、市消防本部救急隊との連携連絡を緊密にし、かつ当直体制を開示し、24時間体制での救急受入れをします。</p> <p>(具体的な体制)</p> <table border="1" data-bbox="115 621 596 888"> <thead> <tr> <th>診療分野</th> <th>稼働内容</th> <th>稼働回数 (1月当たり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">内科系 ・外科系</td> <td rowspan="2">市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加</td> <td>内科系 5回</td> </tr> <tr> <td>外科系 5回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小児科</td> <td rowspan="2">奈良県北和小児科二次輪番体制への参加</td> <td>休日 2回</td> </tr> <tr> <td>夜間 2回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">産婦人科 (※2)</td> <td rowspan="2">奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加</td> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ(休日夜間の一次救急) 10回(※1)</td> </tr> <tr> <td>10回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 現在、休日夜間応急診療所(メディカルセンター)で小児科医師が当直している火・木・土・日(うち火・木は22:00～24:00の当直)以外の曜日を小児一次救急担当とし、開院当初は、当該担当日の月・水・金は20時から24時まででは総合診療医を配置します。ただし、開院後3年を目途に小児科医師を1名増員することで小児救急の充実を図ります。 (※2) 産婦人科については、一次・二次診療を行います。産婦人科緊急手術、分娩、ハイリスク分娩に対応します。但し、未熟児分娩が予想される場合はNICUを有する北和三次救急施設と緊密な連携を取り迅速な対応をします。</p>	診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月当たり)	内科系 ・外科系	市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系 5回	外科系 5回	小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回	夜間 2回	産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	休日夜間応急診療所のバックアップ(休日夜間の一次救急) 10回(※1)	10回	<p>基本方針 24時間対応の地域住民が安心できる救急医療体制の早期構築を目指します</p> <p>基本的な医療提供 ●救急医療体制 ・市内の医療機関・介護・福祉施設や市消防本部救急隊との連携を密にし、スムーズな救急患者の受け入れ体制を整備すると共に、休日夜間の二次救急診療及び市内発生救急事案に対する搬送受入体制について、関係機関との連携を検討する。</p>	<p>・救急要請件数 1,807件</p> <p>・救急受入件数 1,486件(市内671件、市外815件)</p> <p>・救急応需率 82.2%</p> <p>・消防本部救急隊との意見交換会 4回実施</p> <p>・救急告示病院の認定(H27年7月16日) ・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加 平成27年度の参加は実現せず、当該輪番病院のバックアップの役割を果たせるよう取り組んだ。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加 平成27年度は参加を見送った。 (本院の小児科常勤医師1名のみの診療体制であること及び既存の輪番病院で当番日を充足できる状況の変化もあったため)</p> <p>・北和産婦人科一次救急医療体制への参加 平成27年度は参加を見送った。 (既存の輪番診療所・病院で当番日を充足できる状況の変化があったため)</p> <p>・分娩数 57件(再掲) 県内37件(市内33件、市外4件) 県外20件</p>	<p>・開院後10ヶ月間の市内救急搬送件数・率(市消防本部提供)は、 全時間帯 市立病院662件/全件3,465件(19.1%) 当直時間帯 市立病院461件/全件1,953件(23.6%)</p> <p>・ウォークイン患者受入件数</p> <table border="1" data-bbox="1513 474 1878 531"> <thead> <tr> <th></th> <th>月平均</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>162.1</td> <td>1,621</td> </tr> </tbody> </table> <p>・救急患者の転送件数</p> <table border="1" data-bbox="1513 573 1878 699"> <thead> <tr> <th></th> <th>合計</th> <th>率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入件数</td> <td>1486</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県内転送</td> <td>80</td> <td>5.38%</td> </tr> <tr> <td>県外転送</td> <td>22</td> <td>1.48%</td> </tr> <tr> <td>転送計</td> <td>102</td> <td>6.86%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・救急応需率 救急受入件数÷救急要請件数</p> <p>・開院後10ヶ月間の市内救急患者の市内病院受入率(市消防本部提供)は、前年同期比で 全時間帯 61.5%→72.0%(10.5%増) 当直時間帯 54.6%→69.2%(14.6%増)</p> <p>・生駒市消防本部との意見交換会を開院前の5/25、開院後の10/12、1/27、3/22実施。 ※意見交換内容 E-MATCHや輪番体制などの救急搬送ルールの確認やERナースと生駒消防救急隊とが相互に要望等を打診(患者家族への連絡の迅速化、電話対応職員とERとの連絡の円滑化など)</p> <p>・年度途中の開院となり、輪番の割り振りが完了していたことや実績がないことが主な理由。</p> <p>・開院後10ヶ月間において、市内輪番病院が当番日に受け入れできなかった293件のうち172件(59%)を市立病院で受入れた。</p> <p>・7/30、2/26 県の北和小児二次輪番会議に出席</p> <p>市立病院としては、平日夜間の当番を週1回、あるいは、日曜の昼夜間を月1回程度で輪番参加の意向であったが、今年度は、他病院の輪番新規参入や輪番回数増もあり、市立病院の輪番参加は見送りとなった。</p> <p>・助産制度の実績 5件 ※市立病院は、児童福祉法第36条に規定する「助産施設」として届出している。(再掲)</p>		月平均	合計	件数	162.1	1,621		合計	率	受入件数	1486		県内転送	80	5.38%	県外転送	22	1.48%	転送計	102	6.86%	<p>○「救急は断らない」という姿勢のもと、ER型救急システムで、基本的に全ての救急患者に対応する救急初期診療を行っている。</p> <p>○救急搬送される患者だけでなく、診療時間外に直接自力で来院されたウォークイン患者も24時間体制で受け入れを行っている。</p> <p>○市立病院で受け入れられず、他院へ転送された割合が、受入総件数の6.86%あったのは、整形外科、脳神経外科の常勤医師がいないことから、骨折や脳梗塞、くも膜下出血などの急患について、対応できなかったことが主たる要因であった。</p> <p>課題 当直、オンコール体制に参加できる整形外科、脳神経外科の常勤医師の確保が必要である。</p> <p>○開院後10ヶ月間の市内救急患者の市内病院受入率は、前年同期比で、全時間帯で10.5%増、当直時間帯で14.6%増と市内受入率の向上に寄与している。</p> <p>○市消防本部との定期的な意見交換会により、市立病院の救急専門医やERナースと救急隊とが直接に、具体的事案についての相互理解を深め、今後の改善策や対応を共に検討し合うことで、連携強化に努めている。</p> <p>○救急告示病院として認定された。</p> <p>○輪番病院のバックアップを行い、市内救急医療に貢献した。</p> <p>課題 市内輪番体制における位置づけが定まっていないため、救急受入れの実績を提示する等、輪番体制への参加に向けて関係機関と協議を行う必要がある。</p> <p>○北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会議に出席する等、県担当課及び他の輪番病院等との協議を継続的に行う。</p> <p>○奈良県産婦人科一次救急医療体制への参加について、県担当課及び他の輪番病院等との協議を継続的に行う。</p> <p>○ハイリスク分娩への対応は、県総合医療センターと連携を取っている。(再掲)</p>
診療分野	稼働内容	稼働回数 (1月当たり)																																						
内科系 ・外科系	市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加	内科系 5回																																						
		外科系 5回																																						
小児科	奈良県北和小児科二次輪番体制への参加	休日 2回																																						
		夜間 2回																																						
産婦人科 (※2)	奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加	休日夜間応急診療所のバックアップ(休日夜間の一次救急) 10回(※1)																																						
		10回																																						
	月平均	合計																																						
件数	162.1	1,621																																						
	合計	率																																						
受入件数	1486																																							
県内転送	80	5.38%																																						
県外転送	22	1.48%																																						
転送計	102	6.86%																																						

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題																														
<p>●救急に対する人員体制 医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師及び事務職員の当直体制をとります。</p> <p>(具体的な体制)</p> <table border="1" data-bbox="115 296 596 552"> <thead> <tr> <th colspan="2">人員体制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常時</td> <td>内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制</td> </tr> <tr> <td>北和小児科二次輪番日</td> <td>通常時当直体制+小児科医師1名の当直</td> </tr> <tr> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日</td> <td>通常時当直体制+総合診療医1名を20時～24時の間で配置</td> </tr> <tr> <td>北和産婦人科一次救急当番日</td> <td>通常時当直体制+産婦人科医1名の当直</td> </tr> </tbody> </table> <p>●診療科毎の対応レベル</p> <table border="1" data-bbox="121 816 593 1192"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>対応レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)</td> </tr> <tr> <td>小児科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可</td> </tr> <tr> <td>産婦人科 (二次輪番)</td> <td>諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)</td> </tr> </tbody> </table>	人員体制		通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制	北和小児科二次輪番日	通常時当直体制+小児科医師1名の当直	休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制+総合診療医1名を20時～24時の間で配置	北和産婦人科一次救急当番日	通常時当直体制+産婦人科医1名の当直	診療科	対応レベル	内科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)	外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)	小児科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可	産婦人科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)	<p>・救急診療時においては、内科系・外科系医師、検査技師、放射線技師の当直等必要な人員体制や画像診断、検体検査等の診療機能を確保します。</p>	<p>・人員体制の整備 救急受入体制として、医師、検査技師、放射線技師、薬剤師の当直等患者数に応じて必要な人員体制を整備した。</p> <table border="1" data-bbox="1071 283 1481 695"> <thead> <tr> <th colspan="2">人員体制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常時</td> <td>医師1名ないし2名の当直体制をとり、初期診療(プライマリ・ケア)を行い、症状等により必要に応じて、全科オンコール体制による専門医による専門的処置を施せる体制を敷いている。 外来看護師2・3名、放射線技師、検査技師、事務職員各1名。なお、薬剤師は、平日夜間週2回、土日祝1名当直。</td> </tr> <tr> <td>北和小児科二次輪番日</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>北和産婦人科一次救急当番日</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>休日、夜間体制 ・診療対応レベルは、病院事業計画に明記している諸検査(CT、MRI、X線、血液等)及び緊急入院に対応可能。さらに、CAGによる心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術も対応可能。腎不全も専門医により対応可能。ただし、骨折、くも膜下出血などについては、常勤の整形外科医、脳神経外科医が確保できていないことから対応は不可。 ・産婦科は、未熟児出産を伴う早産には対応可。ハイリスク分娩は県総合医療センターとの連携が可能。</p>	人員体制		通常時	医師1名ないし2名の当直体制をとり、初期診療(プライマリ・ケア)を行い、症状等により必要に応じて、全科オンコール体制による専門医による専門的処置を施せる体制を敷いている。 外来看護師2・3名、放射線技師、検査技師、事務職員各1名。なお、薬剤師は、平日夜間週2回、土日祝1名当直。	北和小児科二次輪番日	—	休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	—	北和産婦人科一次救急当番日	—	<p>・腎臓泌尿器科や小児科など常勤医が1名体制の診療科で、オンコールできないとき、あるいは、高度医療が必要な場合など本院で対応できない場合は、連携病院に転送する。(麻酔科は3/1から常勤2名のオンコール対応)</p>	<p>○医師をはじめ医療スタッフの当直等体制及び緊急時対応可能な検査・治療体制の確保による24時間対応の救急受入れ体制を構築している。</p> <p>○救急患者の傾向として、内科系疾患患者が多く占めていること、脳神経外科、整形外科の常勤医師がいないことから、病院事業計画に掲げる内科系・外科系医師各1名の体制はとれていない。</p> <p>課題 今後の救急患者のニーズを勘案しながら、救急医療に必要な脳神経外科、整形外科の外科系の常勤医師を確保することで、病院事業計画に掲げる人員体制の整備が求められている。</p> <p>○特に、夜間休日の吐下血の急患への内視鏡検査・処置は県内でも対応可能な医療機関が少なく、貢献度は高い。</p> <p>○整形外科、脳神経外科の常勤医師がいないことから、骨折や脳梗塞、くも膜下出血などの急患については、対応できず他病院へ転送している状況である。</p> <p>課題 骨折や脳梗塞、くも膜下出血などの救急医療に必要な脳神経外科、整形外科の常勤医師の確保が求められている。</p>
人員体制																																		
通常時	内科系・外科系医師各1名、検査技師・放射線技師・薬剤師各1名の当直体制																																	
北和小児科二次輪番日	通常時当直体制+小児科医師1名の当直																																	
休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	通常時当直体制+総合診療医1名を20時～24時の間で配置																																	
北和産婦人科一次救急当番日	通常時当直体制+産婦人科医1名の当直																																	
診療科	対応レベル																																	
内科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸・循環・腎不全等は対処不能)																																	
外科・整形外科・脳神経外科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能)																																	
小児科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可																																	
産婦人科 (二次輪番)	諸検査(CT・MRI・X線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)																																	
人員体制																																		
通常時	医師1名ないし2名の当直体制をとり、初期診療(プライマリ・ケア)を行い、症状等により必要に応じて、全科オンコール体制による専門医による専門的処置を施せる体制を敷いている。 外来看護師2・3名、放射線技師、検査技師、事務職員各1名。なお、薬剤師は、平日夜間週2回、土日祝1名当直。																																	
北和小児科二次輪番日	—																																	
休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日	—																																	
北和産婦人科一次救急当番日	—																																	

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題																																				
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ④ 小児医療の充実</p> <p>本地域における小児二次医療の充実の必要性から、地域医療機関との役割分担のもと、二次医療までの対応が可能な小児医療を提供する。</p>	<p>基本方針 地域医療機関との役割分担のもと、小児医療の充実に寄与します。</p> <p>基本的な医療提供 救急医療体制 奈良県北和小児科二次輪番体制への参加を始められるよう奈良県や輪番病院と協議を進め、休日夜間の一次・二次救急の対応を傾次整備していきます。(再掲)</p>	<p>・人員体制 医師 常勤1名、非常勤5名(常勤換算1.4名)</p> <p>・小児科病床 稼働病床数 4床</p> <p>・休日夜間の一次・二次救急の対応 夜間時間帯については、原則として常勤医師のオンコール体制で取り組んだ。</p> <p>・北和小児科二次輪番体制への参加 本院の小児科常勤医師1名のみの診療体制及び既存の輪番病院で当番日を充足できる状況の変化も相俟って、平成27年度は参加を見送った。</p>	<p>・小児科外来診療は、月～金までの間、非常勤医師5名及び常勤医師1名による二診体制で取り組んだ。(外来患者数は、1日あたり平均3.9人)</p> <p>・入院医療は、病床4床のみ稼働で、常勤医師が対応(入院患者数は、1日あたり平均0.4人)</p> <p>・救急外来は、日勤時間帯のみ非常勤医師が対応し、夜間時間帯は原則常勤医師のオンコール体制</p> <p>・7/30、・2/26 県の北和小児二次輪番会議に出席</p> <p>市立病院としては、平日夜間の当番を週1回、あるいは、日曜の昼夜間を月1回程度で輪番参加の意向であったが、今年度は、他病院の輪番新規参入や輪番回数増もあり、市立病院の輪番参加は見送りとなった。(再掲)</p>	<p>○小児外来は、常勤医師及び非常勤医師により実施した。</p> <p>○小児科については、入院は常勤1名で対応し、外来は常勤1名、非常勤5名で、2診体制で対応した。</p> <p>課題 入院患者の受入れ増を目指すには、さらなる常勤医師の確保が必要であり、病院事業計画の実現を目指し医師確保の取組を進める必要がある。</p> <p>○北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会議に出席する等、県担当課及び他の輪番病院等との協議を継続的に行う。(再掲)</p>																																				
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ⑤ 災害時医療の確保</p> <p>大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な応急用医療資機材等を備えるなど、災害に対する緊急対応ができる機能を確保する。</p>	<p>基本方針 災害時に機能を発揮できる病院を目指します。</p> <p>基本的な医療提供 ●災害時医療 大規模災害時の傷病者の受入れや医療救護等の緊急対応ができる機能の確保について、そのルール作り等を市と協議・検討し、「生駒市地域防災計画」に市立病院の役割等を盛り込み、災害時医療提供体制の整備を進めます。</p>	<p>・災害対策マニュアル案の策定 策定時期 H28. 3. 31</p> <p>・奈良県広域災害救急医療情報システムへの加盟 加盟時期 H28. 3. 4</p> <p>・消防防災訓練 実施時期 5月29日 開院前消防訓練(市消防本部の協力の下、初期消火訓練・避難誘導訓練の実施)</p> <p>・災害用備蓄品の配置 地下備蓄倉庫に、エアータント、投光機、ストレッチャー、簡易ベッド、ブランケット、発電機、無線機、コードリール、食糧(白米・アルファ米、サブバイバルフーズ、保存水)等を備蓄</p>	<p>・生駒市地域防災計画の改訂に合わせ、災害時に市立病院は生駒市医師会災害医療計画に基づく生駒市医師会災害対策本部の指揮下で対応することとなった。</p> <p>・生駒市の地域防災計画における市立病院の位置づけとしては、「大地震等大規模災害時、救護所では対応できない中等症患者、重症患者を後方医療機関として、市内病院とともに医療活動を実施する。」というもの。</p> <p>・大規模災害時の傷病者の受入れ体制や医療救護等の緊急対応機能の確保についてのルールとしての「市立病院災害対策マニュアル」を策定し、院内の災害対策本部、トリアージセンター、傷病レベル毎の処置治療センター、被災者対応センターなど災害発生時に迅速に設置すべき部門と災害発生時の院内の被災状況と対策、入院患者等の安全確保など、既存院内各部門の対応ルールを取り決めた。</p>	<p>○災害発生時の体制・ルールが一定まとまった。</p> <p>○市消防との協働による防災訓練を実施した。</p> <p>○災害用備蓄品を計画どおり配置した。</p> <p>課題 災害対策マニュアル案に沿って現場スタッフによる実地検証を行い、より実効性が発揮できるようなマニュアルとして完成させる必要がある。</p>																																				
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ⑥ 予防医療の啓発</p> <p>市立病院であることから、市民の公衆衛生意識の高揚を図るための講習を行うなど、市の保健行政と連携し、保健知識の啓発を図る。</p> <p>●疾病予防機能の強化について 疾病予防に向けて、メタボリック・シンドロームや生活習慣病等についての医療講演会を定例的に開催します。(講演会の講師は医師、看護師、管理栄養士、理学療法士等病院内のスタッフや院外の医療従事者が務めます。)また、市民健診や予防接種について、医師会と連携して、二次健診の分担等の協力体制を整備します。</p>	<p>基本方針 医療講演会等により、市の保健行政と連携して保健知識の啓発を推進します。</p> <p>基本的な医療提供 地域医療の支援に対する取組 ●「地域・市民への情報提供と啓発活動」 ・医療講演会を積極的に開催することにより、医療知識を多くの市民と共有化して、適切な医療機関選択、受診機会などを啓発する。</p> <p>●健診業務 ・市が実施主体である各種がん健診や特定健診などの委託業務について関係団体・諸機関等と協議し、順次実施していきます。</p>	<p>・医療講演会 月3～4回実施 30講座 参加者 2, 203名</p> <p>・健診実績</p> <table border="1" data-bbox="1071 1451 1448 1682"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>件 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大腸がん検診</td> <td>1 2</td> </tr> <tr> <td>肝炎ウイルス検診</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>特定健診</td> <td>2 1 4</td> </tr> <tr> <td>一般健診</td> <td>2 3 7</td> </tr> <tr> <td>人間ドック・脳ドック</td> <td>8 7</td> </tr> <tr> <td>市職員健診</td> <td>7 5 0</td> </tr> <tr> <td>その他(団体健診等)</td> <td>3 2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1, 3 3 3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・高齢者インフルエンザ予防接種 自己負担金免除対象者 81名</p>	名 称	件 数	大腸がん検診	1 2	肝炎ウイルス検診	1	特定健診	2 1 4	一般健診	2 3 7	人間ドック・脳ドック	8 7	市職員健診	7 5 0	その他(団体健診等)	3 2	合 計	1, 3 3 3	<p>・市民の健康づくりを目的に、月3～4回のペースで医療講演会を開催した。市立病院医師をはじめ技師、看護師等医療スタッフが、身体のメカニズム、病気の予防、病気の治療法などの健康・医療に関する知識啓発・情報提供などを行った。</p> <p>・1か月当たりの健診数</p> <table border="1" data-bbox="1507 1451 1884 1682"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>月当たり件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大腸がん検診</td> <td>1. 2</td> </tr> <tr> <td>肝炎ウイルス検診</td> <td>0. 1</td> </tr> <tr> <td>特定健診</td> <td>2 1. 4</td> </tr> <tr> <td>一般健診</td> <td>2 3. 7</td> </tr> <tr> <td>人間ドック・脳ドック</td> <td>8. 7</td> </tr> <tr> <td>市職員健診</td> <td>7 5</td> </tr> <tr> <td>その他(団体健診等)</td> <td>3. 2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1 3 3. 3</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	月当たり件数	大腸がん検診	1. 2	肝炎ウイルス検診	0. 1	特定健診	2 1. 4	一般健診	2 3. 7	人間ドック・脳ドック	8. 7	市職員健診	7 5	その他(団体健診等)	3. 2	合 計	1 3 3. 3	<p>○開院当初から精力的に医療講演会を開催し、受講者数も一定確保できている。</p> <p>課題 認知症やうつ病など、市民の要望が多いものの市立病院スタッフで対応できない分野についての市民への予防医療の啓発として、市立病院7階交流センターを地域の医療従事者に貸し出し、研修会や講演会の機会を提供するなどの取組みが必要である。</p> <p>課題 未実施の健診等については、実施体制の整備と共に関係団体等と協議を行い、適宜実施していくことが必要である。</p>
名 称	件 数																																							
大腸がん検診	1 2																																							
肝炎ウイルス検診	1																																							
特定健診	2 1 4																																							
一般健診	2 3 7																																							
人間ドック・脳ドック	8 7																																							
市職員健診	7 5 0																																							
その他(団体健診等)	3 2																																							
合 計	1, 3 3 3																																							
名 称	月当たり件数																																							
大腸がん検診	1. 2																																							
肝炎ウイルス検診	0. 1																																							
特定健診	2 1. 4																																							
一般健診	2 3. 7																																							
人間ドック・脳ドック	8. 7																																							
市職員健診	7 5																																							
その他(団体健診等)	3. 2																																							
合 計	1 3 3. 3																																							
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ⑦ 財政的に健全な病院経営</p> <p>新病院の運営形態については、「指定管理者方式」を採用することで、医療機関が有する経営ノウハウを活用し経営の効率化を図り、財政的に健全な病院経営を行う。</p>																																								

生駒市病院事業計画(平成27年11月改定)	平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	取組の評価・課題
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ⑧ 市民参加による運営 条例で設置された市民の代表が参加する病院事業推進委員会において、運営の基本となる病院事業計画、指定管理者との協定及び運営状況の改善について審議し、市民参加による病院運営を実現する。</p>	<p>基本方針 生駒市立病院管理運営協議会の意見を積極的に採用し、地域医療の充実に貢献します。</p> <p>基本的な医療提供 ●病院事業の運営に関する情報の開示及び広報 ・病院の活動・運営については、市と指定管理者との間の管理運営に関する協議に市民等の意見を反映させるため、「生駒市立病院管理運営協議会」を市と協力して立ち上げます。</p>	<p>・市立病院管理運営協議会開催 2回開催(9/7、2/24)</p> <p>(再掲) ・入院・外来患者アンケート調査実施(H28.2)</p> <p>患者満足度(総合評価の評点) 入院 85.3点(有効件数39件) 外来 79.3点(有効件数346件)</p> <p>(再掲) ・ご意見箱の設置(H27.9) (ご意見に対する対応の例) ○デイルームに電子レンジ、給湯器設置 ○全館トイレにトイレットクリーナー設置 ○東生駒駅に案内板設置 ○病院スタッフの接客等に関するご意見等に関して迅速に指導、教育等の対応</p> <p>・市民交流事業 サマーフェスタ 8/1 医療講演会 409名 体験コーナー 64名</p> <p>夏休み親子見学会 8/22 95名</p> <p>市民からの寄贈絵画の常設展示 5点</p>	<p><市立病院管理運営協議会> 第1回 ・開院後の管理運営状況について(6~8月の患者数等、人員体制) ・今後の管理運営協議会の運営について(スケジュール案) 第2回 ・市立病院運営状況について(6~1月の患者数、収支等、地域連携の取組) ・市立病院のPRのあり方について</p> <p>(再掲) ・本アンケート調査は、指定管理者である徳洲会が、病院への評価等を把握し、問題点の改善や満足度の向上に役立てることを目的として、毎年、グループ内の全72病院を対象に実施している。</p> <p>※患者満足度(総合評価の評点)は、医師・看護師の診療内容・態度、職員の対応・サービス、食事の充実、病院の施設・設備・環境についての各評価項目の総合点を表記している。</p> <p>(再掲) ・ご意見箱は、1階総合待合及び4階病棟のデイルームに設置。</p>	<p>○管理運営協議会を計画どおり開催した。</p> <p>○外来部門の満足度 医師の「患者さんへの配慮」や「内容の説明」「看護師の対応やサービス」に評価が高く、会計、総合受付、掲示物の項目の評価が低くなっている。(再掲)</p> <p>○入院部門の満足度 医師、看護師の説明、態度に関する項目の評価が高く、食事、掲示物、売店、静寂といった施設環境の項目の評価が低くなっている。(再掲)</p> <p>課題 アンケート調査の結果、満足度の評価が低くなっている項目については、関係部署、委託業者等と協議しながら改善していく必要がある。(再掲)</p> <p>○ご意見箱の設置により、市立病院の管理運営に市民の意見を反映させ、市民満足度の向上につなげていく仕組みができた。(再掲)</p> <p>○市立病院を身近に感じていただくための市民交流事業をNPOの協力を得ながら実施した。</p>
<p>1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ⑨ 環境に配慮した運営 新病院の運営にあたっては、環境マネジメントシステムであるISO(国際標準化機構)14000シリーズの認証取得を目指す。</p>		<p>・市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組 ①警備員による夜間巡回時に、電子機器の電源切り忘れ等が発見された場合は、翌朝メールで全員にその内容を配信した。それによって電源の切り忘れが減った。 ②供覧はすべて院内LANを活用した。 ③通勤に自動車を使用している職員は、197名のうち63名で、全体の32%であった。 ④電気のスイッチ付近に「最後に出る人はエアコン・電気を切ってください。」といった貼り紙をし、啓発を行った。</p>		<p>市の組織と同等の取組がなされている。</p>
			<p><院内保育園の実施> (6/1~)院内7階バンビ保育園 保育時間 日勤 8:00~17:30(365日) 夜勤 16:00~翌日10:00(週2回 火・金) 保育園児 対象 生後2ヶ月~10歳(医師・看護師・薬剤師のお子さん) 保育士 人員 常時2名 保育児童数 一日平均4.7人(日祝含む) 24時間保育運営日数 25日 休日保育運営日数 49日</p>	

収支		(単位 千円)	
平成27年度 事業計画	平成27年度 事業報告	平成27年度 事業報告の補足説明	
<p>医療収入 2,654,085 医療費用 2,813,828 医療利益 -159,742 医療外収益 4,800 医療外費用 48,141 経常利益 -214,163</p>	<p>医療収益 1,102,914 医療費用 2,330,462 医療利益 -1,227,548 医療外収益 11,550 医療外費用 5,358 経常利益 -1,221,356</p> <p>※数値は期末決算後の確定値</p>	<p>(計画と報告の差額) 医療収益 -1,551,171 医療費用 -483,366 医療利益 -1,067,806 医療外収益 6,750 医療外費用 -42,783 経常利益 -1,007,193</p>	